

清友

No. 50

2013年10月

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ4F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541



岡田紅陽撮影(千円札裏の絵)と同じ本栖湖畔よりの富士山

地公三単産・地公退高齢者集会

9月14日、地公三単産・地公退高齢者集会在日本教育会館で開催されました。

昨年まで地公「四単産」の主催でしたが、東交等で構成する都市交通労働組合が自治労と組織統合し、自治労・全水道・日教組の三単産になって初めての高齢者集会です。

社会保障拡充など高齢者課題と、公務員の労働基本権回

今年も9月の高齢者連続行動が行われました。

「原発ゼロ、社会保障の切捨て阻止、改憲阻止、現・退一致で生活防衛」をスローガンに

高齢者集会



復などの取組みを強化する集会基調を確認しました。

記念講演は、沖縄国際大学前泊博盛教授による「沖縄からみた日本の民主主義」。沖縄は明治政府による沖縄処分、太平洋戦争末期の沖縄戦、沖縄を切り捨てた単独講和等の歴史が、米軍基地が集中する現在の沖縄につながっています。米軍の事件や事故が起きても、日米地位協定により消防も警察も全く手を出せない状態にある日本は主権国家なのか、民主主義はあるのかと、熱く話されました。(柳)

全国高齢者集会

9月15日、日比谷公会堂に全国から2千人が結集して開かれました。

主催者の日本高齢・退職者連合(高退連)阿部会長は「安倍首相の暴走を許さないよう憲法改悪に反対し、平和と民主主義を守る運動を進める。運動の強化へ向けて、1千万連合の組織拡大運動と連動して退職者連合30万組織を目指す」決意を示しました。

古賀連合会長は「アベノミクスは、一部の企業や投資家に恩恵があるだけで、低賃金と物価上昇により勤労者・生活者の家計は苦しくなっており、民主党政権下で進められた生活者・働く者の視点に立った政策の流れが逆転してきている。連合は『働くことを軸とする安心社会』の実現に向けて闘う」と挨拶しました。

当日は台風18号が接近しているため、デモ行進は中止になりましたが、恒例になっている「NHK・みんなの体操」を参加者全員で元気にを行い、集会を終了しました。(戸張)

学習交流会



社会保障制度改革 国民会議報告

マスコミは「負担増と給付減」に焦点を当てて報道している。そういう側面はあるが、小泉流市場原理に基づく社会保障切捨てではなく、福田政権で発足した当時の「社会の再分配機能は必要」という基本スタンスが維持されている。今後、具体的施策提言を個別に検証して対応していく。

目指すべき社会

国境を超える強欲資本主義が世界を席卷している。今の

▼社会保障国民会議報告の基本スタンスは評価すべき▼介護要支援の市町村移管は要支援の切捨て▼医療・介護一体の地域包括ケアの実現を

9月18日、川端邦彦自治退事務局長を講師に、「社会保障の動向と課題」を題とする学習交流会をもちました。参加は24名でした。開会にあたり、定期総会以降の物故者を悼み、黙祷を捧げました。講義の中心テーマの介護制



川端講師

度は、どちらかというとなんか苦手な分野ですが、参加者は、8月6日に政府へ提出された「社会保障制度改革国民会議報告」にもふれた講義を熱心に聞き入り、実りある学習会になりました。そして、終了後、楽しく懇親しました。

金融は博打であり、市場の規制は必要だ。市場原理主義者が主張する小さな政府は、生活破壊を招く。程よい政府を目指すべきだ。第一次分配は賃金、第二次分配が社会保障。今のような低賃金が続けば、社会保障を崩壊させ、次代の社会を形成できなくなる。

世代間格差論の正体

人間は共通して子ども期と高齢期が社会保障の対象。社会保障は私的保障の限界を踏まえて形成した。介護も嫁中心の私的介護から公的介護に切り換えたもので、社会保障

を切り詰めれば私的負担が増える。負担の総額は同じだ。企業は常に社会保障の負担軽減を狙っており、社会保障の世代間格差論の発信者だ。

介護の仕組みと課題

保険方式による介護制度は権利としての性格を明確にした。介護の財源は、保険料半分・税半分。一割負担は、使うことを抑制する考え方から導入したものだ。介護は長期にわたるので負担増は問題だ。介護報酬は、03年以降4回改定されたが、09年を除き実質マイナス。介護報酬が適切

国民会議報告の焦点

地域包括ケアは国民会議報告の主な柱。中学校区程度の生活圏で医療と一体的に対応する考え方。是非実現したい。歩ける範囲で医療・介護を形成する街づくりと連動する。要支援の市町村移管は反対。財源と人材を拡充すれば実現可能だが、市町村には無理。結果として要支援の切り捨てになり、重度化が進行する。

自治体要求行動

今年介護保険改正が焦点。今、要支援の市町村移管問題が集中的に論議されている。次の改正論議は3年後になるので、やるのは「今でしょー」と、自治体へ向けて要求運動を進めている。



やっぱり懇親会は楽しいね

第2回幹事会

11月28日に紅葉狩り ウォーク、新春の集いは 1月25日、誕生日お 祝い等を1月から開始

9月18日に第2回幹事会を開催し、①紅葉狩りウォーク、②新春の集い日程、③秋の旅行企画細目、④誕生日お祝い電話実施などを確認しました。

■紅葉狩りウォーク

雨天により中止したお花見ウォークの代替行事として紅葉狩りウォークを実施します。

〈開催日〉 11月28日

〈場所〉 平林寺(新座市)

武蔵野線「新座」駅から約3.3Km歩いて平林寺へ行き、帰りは現地解散とする予定です。



平林寺の紅葉

ただし、紅葉の時季の平林寺は参拝者が多く、境内に多人数が一同になって昼食をとれる場所を確保することは困難です。昼食場所や集合時間等の細目を企画部会で検討し、11月初めに案内を送ります。

■新春の集い

今年度の新春の集いは1月25日、例年同様「小石川後楽園涵徳亭」で開催します。

今年は早めに会場をおさえ、土曜日の開催とすることができましました。会費や次第などの細目はこれから検討します。募集案内は12月です。

■誕生日お祝い電話

毎月機関紙を会員宅に送っています。一方通行です。会員のみなさんの健康はどうか、お困りのことはないか、退職者会がお役に立てることはないかなどお話しする機会をどうやってつくるのか検討

してきました。試みとして「誕生日に会員へ表敬の電話」をすることにしました。誕生日が不明な会員が相当数いますので、準備期間を設けて1月から始めたいと考えています。

■緊急連絡体制

6月以降、会員や関係者のご不幸が続きました。事務局が中心になって会員のみなさんへ訃報の連絡をとりま

が、結構大変でした。

以前から、会の行事など会員のみなさんへ電話連絡する体制の整備も視野に入れて、各会員へ連絡網の整備を検討して行きました。直近の訃報連絡の経験を踏まえて、連絡網について幹事会で検討しましたが、結論は出ませんでした。引き続き実施方法を考えていきたいと思っています。

退職者会活動日誌

*7月9日の第1回幹事会以降9月18日の第2回幹事会までの活動記録。

▼8月15日、「戦争犠牲者追悼・平和を誓う集会」(千鳥ヶ淵戦没者墓苑)に3名参加。▼8・15集会に2名参加。集会の様子は前月号報告のとおり。▼8月20日、故小泉京一さんの通夜に14名、21日の告別式に10名の会員が参列。

▼8月26日、故庭山昌治さんの通夜に会を代表し庄司事務局長が参列。▼8月30日、自治退都本部幹事会が自治労働本部で開催。庄司事務局長(常幹)と小林事務局長次長(幹事)が参加。主な議題は高齢者集会の取組みと自治退都部の対応など。▼9月1日、「さようなら原発講演会」(日比谷公会堂)に6名参加。▼9月2日に第2回旅行部会。秋の親睦旅行企画細目等を検討。部会員全員参加。▼9月10日に第3回三役会。幹事会議題等を検討。三役全員参加。▼9月14日、「さようなら原発大集会」(亀戸中央公園)に家族を含め10名参加。集会の様子は別記報告を参照。▼9月14日の地公労・地公退高齢者集會に柳副会長、庄司事務局長、吉田幹事、15日の全国高齢者集會に戸張副会長、岩淵監査、古口幹事、戸枝會計(取材)が参加。内容は別記報告を参照。▼9月18日、幹事会開催前に第3回三役会。幹事会議題等を検討。三役4名参加。同日、第2回幹事会。検討内容は別記報告参照。幹事12名参加。▼事務局会議・事務業務は16回。行事企画、機関紙・定例連絡等送付などに対応。

再稼働反対



ら抜け出すことが必要、人生・命は一度きりだ。」と語り、定員を超える参加者であふれた会場は大きな拍手に包まれました。

9月15日、大飯原発4号機が定期検査に入り、再び原発稼働ゼロになりました。その前日の14日、「再稼働反対! さようなら原発大集会」が亀戸中央公園で開催され、9千人が参加しました。

関東大震災から90年の9月1日、日比谷公会堂で「さようなら原発講演会」が開催されました。

いわき市議の佐藤和良さんは、「関東大震災が起これば、首都圏が『原発現地』になりうるという想像力を働かせてほしい」と発言。呼びかけ人の大江健三郎さんは「脱原発社会へ向けて女性が活発に発言し行動している。世の中を変えるのは女性だと思う。希望はある。」と挨拶しました。

京都大学の小出裕章さんは、スライドで原発事故の汚染実態を告発し、「他者を犠牲にして成り立つ原子力的なものか

「安倍首相は『汚染水は完全にブロックされている』と

国際公約した。責任を果たせ。」(落口恵子さん)、「将来のこともたちが生きていける時代を残すため行動しよう。」(大江健三郎さん)、「原発は環境と未来に対する犯罪だ。」(鎌田慧さん)という主催者の発言と、「取り戻すべくは人としての名誉と、私たちがこの世を去っても永遠に残される子どもたちの未来だ。」という福島への訴えに象徴される原発立地各地からの告発を踏まえて、原発の再稼働は断じて許せないことを再確認。集会後、浅草方面と錦糸町方面にわかれてパレードしました。

都退協 定期総会

直接行動も視野に入れた闘いを提起、新会長に花輪さん (主税)

8月9日、都労連に対応する退職者組織・東京都退職者協議会(都退協)の第43回定期総会が、都庁職大会議室で開催され、清掃退職者会から庄司事務局が代議員として参加しました。

主催者を代表し山本会長(都庁退)は「安倍政権で退職者・弱者にとって厳しい情勢だ。今後は政党を通すだけではなく直接行動も考えつつ、護憲、社会保障、原発の闘いを進めていこう」と訴えました。議事では、斉藤事務局長(東

水退)が提案した「公退連、地公退の方針に沿って活動し、政治的要求課題を国会に届ける窓口としての役割を果たす」等の活動方針を満場の拍手で決定し、事務局次長を廃止する規約改正案を確認しました。

今年役員改選期で、3期6年にわたり重責を果たされた山本会長、斉藤事務局長が勇退し、新会長に花輪さん(都庁退・主税)、事務局長に平岡さん(都高退教)を選出。集会の最後を花輪会長の発声で「団結ガンバロー」を三唱し締めくくりました。

東京総行動

9月18日の学習交流会で、30余年にわたり解雇撤回を求めてNTTと闘っている木下さんを招き、支援の物販を行いました。おかげ様で用意した「紀州・南高梅」12個は完売でした。東京全労協が取組んでいる東京総行動でもNTT木下闘争の支援行動が組まれており、9月25日、雨についての社前集会で会社側を迫りました。



NTTに解雇撤回を訴える木下さん(後ろは東京清掃の宣伝カー)